

2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

(1) 御嵩町向陽中学校における実践

< 授業実践 >

授業実践に向けての構え

生徒に付けたい力と評価規準を明確にし、「聞くこと」「話すこと」を中心とした授業実践を行う。また、中高の生徒の実態について共通理解を深め、授業改善を図る。そのために、以下の2点を重点として実践を行う。

- ・生徒一人一人の実態を把握し、英語学習への意欲の高揚を図る指導
 ゴールの姿を明確にし生徒と共有する。
 コミュニケーションを図るために必然性のある場面設定や言語活動を工夫する。
- ・コミュニケーション能力を育成するための基礎・基本の定着を図る指導
 「何を基礎・基本とするのか」を明確にし、単位時間における学習活動を精選する。
 「読む」「書く」活動を授業に位置付ける。

第1回授業交流研究会

【期日】 平成18年7月7日(金)

【公開授業】

- ・単元名 New Horizon English Course 3 Unit3 Our Sister in Nepal
- ・授業学校・学年 向陽中学校 3年
- ・主な提案内容

「アジアの国々について書かれたレポートを、キーワードを手がかりに要点を読み取り、読み取った内容について自分の考えをもつことができること」をねらいとし、以下の4点を工夫して授業を行った。

- ・単元で学ぶ言語材料の定着のための「弾丸インプット」による帯活動の工夫
- ・本時の題材に関連した「カンボジアの生活」のレポートを用いた導入の工夫
- ・「Foster Program の一員としてアジアのどこの国の里親になるかを考える」という必然性のある言語活動につながる課題設定の工夫
- ・読み取り方法を生徒自身が選択して取り組めるような3つのコース設定
英語学習に対する関心・意欲の差が大きく、それが能力差に影響し、時としてペア活動が成立することが難しい生徒達であるが、「弾丸インプット」の導入から勢いのある姿が見られた。

【授業研究会】

- ・授業のスタートに勢いがあり、音読する際の生徒の声量も大きく、前向きな姿勢が見られた。
- ・興味をもたせる導入の工夫があり、生徒が集中して取り組む姿が見られた。
- ・読み取った内容について、I want to help(国) ..Because I'm sad to know that (その国の実情).
といった形のフレーズを使うように意識させれば、「自分の考えを表現することができる」という本時のねらいは達成できただろう。
- ・教科書題材だけでは「読む力」は十分身に付かない。教科書の内容に近い文(英文の長さや扱われている語彙が生徒のレベルに合っていること)で読み取る訓練を普通の授業の中でも行っていくとよい。
- ・学習事項の定着を図るためには、「読むこと」「書くこと」を位置付けることが大切である。

第2回授業交流研究会

【期日】 平成18年11月8日(火)

【公開授業】

- ・ 単元名 New Horizon English Course 2 Unit 5 A Park or a Parking Area
- ・ 授業学校・学年 向陽中学校 2年
- ・ 主な提案内容

「マイクと絵美の対話文を聞き取り、それをもとにして英語の重要性について、I think・・・を用いて自分の考えを相手に伝えることができること」をねらいとし、以下の4点を工夫して授業を行った。

- ・ 「弾丸インプット」「シャークマン」による帯活動の工夫
- ・ 聞き取りの視点の設定、音読補助カード等、能力差に応じた手立ての工夫
- ・ 音読する量の確保のための多様な音読方法の工夫
- ・ 授業全体を All English で行い、英語でコミュニケーションを図ろうとする意識の流れを途切れさせない工夫

【授業研究会】

- ・ 生徒の意欲を高める導入や活動を飽きさせない音読活動の工夫があり、英語授業に向かうエネルギーが感じられた。
- ・ ほぼ All English で授業が行われ、授業にテンポの良さ・スピード感があった。生徒は英語で反応し、積極的に自分の意見を持ち、それを表現しようとするなど、コミュニケーションに前向きな姿が見られた。
- ・ Listening で聞き取らせる視点と読み取りの視点を分け、「When, Where, Who, Why を聞き取る」というポイントを押さえ、しっかりと聞き取らせたい。
- ・ 本時の終末の姿(どういう姿であれば評価規準を達成できたのか)をより明確にする。

<グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

【期日】 平成18年7月31日

【受験者】 34名(2、3年生選択英語クラスの生徒を中心)

【結果分析】

昨年度受検経験のある生徒もあり、楽しんで面接テストを受け、面接官の問いに自分なりに英語で伝えようとする意欲が感じられた。

結果からは、全体的には世界平均には十分至ってはいないが、領域別に校内での得点を比較すると、「Starters」ではリスニング、リーディング、ライティングにおいてはほぼ同じ得点、スピーキングに高得点を得ることができた。「Movers」と「Flyers」においてはリスニングのポイントに比べスピーキングのポイントが高く、特に「Flyers」ではスピーキングは世界平均とほぼ同じであった。昨年度と比較してもスピーキング力に大きな伸びが見られた。これは、日頃から「話す」活動に重点をおいて指導してきた成果と考えられる。しかし、リスニングにおいては、レベルが上になるほど他の領域に比べてポイントが低い。このことは、「聞く」活動も「話す」活動と同じように重点を置いてきたつもりであっても「聞く」活動への指導を一層充実させる必要があることを示している。

特に、まとまりのある英文を聞き取る力や、ある程度の速さの英文を聞き取る力に弱点があることが明らかになった。ALTの訪問時には休み時間には積極的に話しかけていく姿が多く見られるが、授業ではやや受け身の姿がうかがえる。相手の話す内容が十分に理解できないことが起因していると思われる。今後、ALTとのTTに工夫を凝らし、ネイティブスピーカ

一の英語を聞き取る力をつける指導をしていきたい。

< 学習環境の充実 >

外国人講師による英会話指導（選択英語 1 年生、1 年生）

【期日】 2 月 5 日（月） 2 月 9 日（金）

・ 昨年同様、地域の英会話学校の講師に依頼し、ゲームやコミュニケーションを図る活動を行った。

映像資料（映画の DVD 等）を使った英語学習

・ 生徒の興味・関心に即した映画を観た後、その一場面を取り上げ、使われている英語表現を調べたり、聞き取りや書き取りの練習をしたりした。

英語学習教材の購入

・ 英検対策用問題集... 2、3 年生の選択授業で 3 ~ 5 級の英検受検を目的として授業を行い、問題の傾向や対策をつかめるようにした。また、3 級受検者に対しては、二次試験の面接に向けての個人練習も行った。その結果、選択授業受講者のうち 4 級、3 級とも約 9 割、さらには準 2 級に 4 名の生徒が合格することができた。

・ ピクチャーカード... 品詞別・テーマ別（スポーツ・食べ物等）のカードを授業の導入や音声ドリルで使用した。文字を媒体にせず、視覚的に言語をとらえるのに効果的であった。

生徒のノートや作品の展示

・ 模範となるノートや効果的な家庭学習を行っている生徒のノートを紹介したり、自己紹介・人物紹介などのスピーチ作文等の掲示をし、学習意欲の喚起を図った。仲間の作品から学んだ表現を自分の作文に取り入れたり、より独自性を強めようと発展的な表現を工夫したり、より質の高いノートづくりを心がけたりするなど英語学習への意欲を高めることができた。

< 成果と課題 >

授業交流を通して、中学校、高校の生徒の様子や英語指導の実態を知り、お互いが抱えている悩みや問題点などを共有することができた。また、何よりも地元の学校を大変身近に感じるようになった。研究会では、形式にとらわれず、率直に意見交流を行うことができた。

3 年間だけでなく、6 年間を見通した指導計画の在り方について、その必要性を強く感じた。中学校側から高校の先生方に「実践的なコミュニケーション活動」の場面を授業として提供することができた。音声を使用し実際の使用場面を想定した言語活動を見てもらうことにより、中学校側の考えているコミュニケーション活動を中心とした授業を発信することができた。

高校入学時の生徒の語彙力・文法力の弱さを感じられ、「書くことに慣れていない」ということを指摘された。中には be 動詞と一般動詞の区別を理解していない生徒も少なくないという実態を耳にすると、「聞くこと」「話すこと」に積極性を示す生徒たちの学習姿勢を大切にしながらもオーラルを中心としたコミュニケーション活動で終わってしまうことのないよう、「書くこと」「読むこと」力の育成を図っていかなくてはならないと考える。例えば、中心となる言語活動で話したことを授業の終末で書きまとめたり、各 Unit の Part 毎に本文暗記とともに筆記を家庭学習の課題としたりすることで「書くこと」の定着を図りたい。

中学校で行われている活動と高等学校で実施する活動の連続性や発展性を配慮した指導計画や指導方法、評価方法の見直しと改善を図る必要性がある。